

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375300213		
法人名	社会福祉法人 高坂福祉会		
事業所名	グループホーム 扶桑苑		
所在地	愛知県丹羽郡扶桑町大字山那字番所下83-5		
自己評価作成日	令和 2年 11月 20 日	評価結果市町村受理日	令和3年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2375300213-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2375300213-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業理念で「自由と人権の尊重」「地域介護・福祉の拠点」「出会い・ふれあいの輪」を掲げ、利用者様一人ひとりが役割を持って共同生活が送れる様に炊事、洗濯、買い物等を行って頂ける様に支援しています。  
例年は、季節に応じた行事(夏祭り、運動会)等を併設特養と合同で行っていますが、今年度は新型コロナウイルスの影響もあり各行事が中止となり、屋内レクリエーションの充実度の向上、車中からの桜、紅葉見物、季節を感じられる食事の提供機会の工夫等に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは特別養護老人ホームに併設して運営していることで、併設事業所と連携した利用者の支援が行われている。利用者の中には、併設事業所の居宅介護支援やデイサービス等からの支援を受けながら在宅での生活を継続し、利用者や家族の状況等に合わせてグループホームに生活場所を移行する支援も行われている。家族や地域の方との交流については、併設事業所との合同の取り組みの他にもホーム独自の交流も行われており、地域の方にホームを知ってもらおう働きかけにつなげている。例年は、併設事業所との合同の行事も行いながら、家族や地域の方をはじめ、様々な分野の方との交流が行われている。また、職員の資質向上につなげる取り組みも行われており、年間研修計画に基づいた研修を実施しながら、利用者への支援や業務改善につなげる取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「自由と人権の尊重」「地域介護・福祉の拠点」「出会い・ふれあいの輪」の事業理念を念頭に置き、その人らしさやできる事を大切にしている。グループホーム会議、個別ミーティングで理念の確認を行っている。	運営法人の基本理念をホームの支援の基本に考え、日常の支援を通じて職員間で理念の内容を振り返る等の機会がつけられている。職員一人ひとりが目標をつくり、理念の実践につなげる取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	例年では、区長様、住民の皆様の協力を得て地域行事に参加しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で各行事が中止となり参加できていない。	今年度は感染症問題があることで、地域の方との交流が困難になっているが、例年は、併設事業所と連携した行事の取り組みの他にも、地域で行われている行事にホームからも参加する等の交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で各行事が中止となり、地域の方との交流を自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度より会議の開催頻度を年6回に計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で書面を通じての開催となる。書面において、利用者様の日常の様子をお伝えしている。	今年度から会議の開催回数を年6回に移行しているが、感染症問題があることで、現状は、書面による実施となっている。会議を開催する際には、様々なテーマで話し合われており、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。	ホームでは、様々な検討を重ねながら、会議の開催回数を年6回に移行しているが、今年度は書面による実施となっている。次年度以降については、定期的な会議の開催につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進委員会議(書面開催)に参加して頂き、情報交換を行っている。	町の担当部署とは、併設事業所とも連携しながら、定期的及び随時の情報交換の機会がつけられており、不明点の解決等、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、例年は、介護事業所が集まる連絡会も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	グループホーム会議内、個別ミーティングにおいて身体拘束の知識、理解の向上に努めている。また、事業所全体において外部講師を招き研修を行っている。	ホームでは、身体拘束を行わない方針で支援が行われており、出入り口の施錠については、利用者の状況等に合わせて対応している。毎月の身体拘束に関する現状の確認や定期的な職員研修も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所全体での研修を実施している。グループホーム会議内、個別ミーティングにおいても知識・理解を深められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	今年度、研修参加はなかった。資料は常時閲覧できるよ場所においてあり、各自で情報収集し学ぶように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	今年度、新規の契約はなかった。契約時の説明においてはご家族の不安・疑問点には丁寧に説明し理解を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で家族会は未開催。毎月の新聞発行、お電話、面会時において利用者様の状態、グループホームの取り組みについて報告を行っている。	今年度は家族との交流が困難になっているが、例年は、家族会や行事を通じた交流の機会がつけられている。家族からの要望等については、内容にも合わせてリーダーや施設長による対応が行われている。また、毎月のホーム便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月会議・ミーティングを開催し意見交換の場を設けている。常時、職員が顔を合わせられる環境の為、日常から改善案等出し合い、見直しが行えるように心掛けている。	今年度は感染症対策もあり、個別にミーティングの機会をつくり、職員間の情報の共有や職員からの意見等の把握につなげている。また、定期的な職員面談が行われており、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員は年度末に人事考課をうけ、得意な事と苦手な事を知り、各々が向上に努めている。スタッフの休み希望はできるだけ叶えられる様に勤務表を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部会議…リスクマネジメント研修・法令遵守研修…リスクマネジメント研修・オンデマンドにて受講 グループホーム会議、個別ミーティングで勉強会も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	例年、年2回町内のグループホーム研修会に参加し、意見の交換等交流を図っているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で参加していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回面接時には、まずご本人様との信頼関係の構築に重点を置き、ご本人様に安心して頂けるような言葉掛けを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	申し込みの段階では、ご家族のこれまでの苦労に対して、共感的な姿勢で傾聴し信頼関係を築いていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメント資料をもとに身体面・認知症等の状況及び、本人・ご家族の希望など総合的観点から入所を決定していく。最終的には診断書の状況によって可否を判断していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共同生活における家事全般の中で役割を分担しながら助け合い、職員は「ありがとうございます。」「助かります」などの感謝の言葉をお伝えしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で各行事が中止、面会制限もあり従来のような関係性を築くのに苦慮している。グループホーム新聞、電話などを通じて利用者様の様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、併設特養、デイサービスに知人がお見えになられても双方の行き来を制限している状況が続いている為、従来のような支援ができていない。	併設しているデイサービス等に利用者の入居前からの関係の方が利用する際には、利用者との交流の機会をつくる等、馴染みの関係の継続にもつなげている。また、例年は、家族との外出も行われており、行きつけの場所へ出かける機会がつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様間の関係性をよく把握したうえで、居間での席の配置、レクリエーション等で孤立したり、気分を害されることのないよう配慮に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期の入院が見込まれ契約が終了しても、状況に応じ再入所を検討させて頂く旨をご家族様へ伝えている。また、併設特養の入所申し込み等も希望があれば対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話や訴えは記録し把握するよう努めている。意思の疎通が難しい方にも表情や態度などから気持ちを汲み取れる様努めるとともに、ご家族様からもお話を聞き支援につなげられる様にしている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者の意向等の把握につなげている。また、ホームでは、iPadを活用した職員間での情報の共有が行われており、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時にご本人、ご家族様からこれまでの生活歴等を伺う様にしている。また、入所後も引き続きその方やご家族様から新たな情報も伺えるようにコミュニケーションを積極的に図る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活の様子は毎日、午前・午後に分けて記録している。また、変化があれば申し送りノートにも記入し、情報の共有に努めている。バイタル・食事摂取量・水分摂取量・排泄記録は毎日記録を残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員とケアマネが中心となり、ケアプランを作成、6ヶ月毎に見直しを行っている。今年度は文書してご家族の意向も伺う様にしている。本人の状況が大きく変化した場合は現状に即した計画に作り替えている。	介護計画については、6か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。iPadを活用した記録を残し、定期的なカンファレンスやモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の生活記録ファイル及び申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。言葉や仕草、表情等を記録していく事で、その後の介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	病院の受診等、ご家族様の都合が悪い時は職員が対応している。重度化に関しては隣接特養でのノウハウを取り入れ介護に生かしている。食事形態の変化に対応する為、隣接特養厨房よりゼリー食の提供を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	例年は、地域のボランティアさんの定期的な訪問があり、一緒に歌を唄ったり、作品作り等を行い交流を深めているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で訪問が実現できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人及び家族の方の希望があれば、嘱託医にて月2回の往診が受けられる様に対応している。他にご希望のかかりつけ医の受診も可能であることを説明している。	協力医による定期的な訪問診療等の医療面での支援が行われているが、利用者の中には、今までのかかりつけ医を継続している方もいる。併設の特養の看護師が定期的にホームに訪問しており、医療面での支援や連携につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	隣接特養看護師や嘱託医の看護師に相談できる体制があり、アドバイスを受け対応ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報の提供を行っている。退院時にはMSWと退院調整を行っている。退院時には直接出向いて、グループホームでの生活が可能か確認し、今後の生活上の注意点などの説明を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	体調の変化があればその都度ご家族に連絡している。必要があれば話し合いの場を設けている。グループホームとしてできる事、できない事を説明して理解を求めている。	利用者の看取り支援を行っていないことを家族にも説明しており、利用者が身体状態等の段階にも合わせながら、医療機関等の次の生活場所への移行支援が行われている。また、併設の特養についても看取り支援を行っていない方針の説明が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人の「緊急対応マニュアル」を基に緊急時には隣接特養にも協力を要請できる体制がある。法人内部における救命講習にも定期的に参加するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	夜間や昼間を想定した避難訓練を定期的に実施している。入所者様も参加して頂いている。食料品や日用品の備蓄を行っている。	基本2か月の一回の頻度で避難訓練を実施しており、様々な災害を想定した対応が行われている。立地場所が河川に近いこともあり、併設事業所を避難先とした水害想定訓練も行われている。また、併設事業所内に備蓄品の確保も行われている。	今年度は、水害の危険があり、実際に利用者が避難する対応が行われている。近隣の河川が木曾川でもあるため、ホームの継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者ひとりひとりのアセスメントを行い、その方に合った言葉掛け、対応を心掛けている。	運営法人で職員の接遇にもつながるスローガンがつけられており、職員が日常的にスローガンの内容を意識し、利用者への対応等につなげる取り組みが行われている。また、職員の接遇につながる研修も行き、職員の振り返りの機会につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入所者が物事を決定しやすい様に「～しましょうか？」と伺い言葉で話す様に心掛けている。食事で食べたいものをお聞きしたり、オヤツ時の水分提供の際、メニュー表をお見せし選択の楽しみが持てるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入所者各々の生活リズムの違い等も尊重し、支援している。 また、その時その時の声にもできるだけ即座に対応できるように職員間の連携に努め、フットワークの良い対応を目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2か月に1回移動美容室にて、カット、顔そり、毛染め等希望に応じて行っている。 普段の身だしなみにも職員が注意を払い対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	できる方には食事の下ごしらえ、配膳準備、片付け等を行って頂いている。 通常は、職員と一緒に食卓を囲んで、楽しみながら食事が摂れる様になっているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で職員は別で食事をしている。	運営法人で職員の接遇にもつながるスローガンがつけられており、職員が日常的にスローガンの内容を意識し、利用者への対応等につなげる取り組みが行われている。また、職員の接遇につながる研修も行き、職員の振り返りの機会につなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	職員が利用者と一緒に食事をする中で嗜好や食事・水分量の把握に努めている。異変があれば、都度申し送り、情報の共有・引き継ぎに努めている。食事摂取量が低下している方については医師・ご家族と相談し、エンシュア等の捕食も検討・導入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の、本人に合わせた形での口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている。 歯科医(歯科衛生士)に定期的にかかり、口腔ケア等の指導を受けてみえる方もいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表にて個別の排泄パターンを把握している。ご自分でパットの交換がしやすい様に、トイレに必要物品を用意したり、ADLに合わせて居室にポータブルトイレを設置している。	利用者の排泄記録を残し、日常的な職員間での情報交換を行いながら、利用者の排泄状態に合わせた支援が行われている。トイレでの排泄を基本に考え、協力医や看護師との医療面での連携も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日々の食生活では食物繊維の多い食品や乳製品・水分を多くとって頂ける様心掛けています。運動不足が原因と考えられる方に対しては、ご本人に無理の無い程度に廊下を歩いて頂いたり、散歩にお誘いしている。改善が見受けられない方には主治医に相談し薬を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴日を決めているが、ご本人からの希望があればその都度対応している。季節により、菖蒲湯、ゆず湯等実施している。	利用者が週2回以上の入浴ができるように職員間で利用者への声かけ等が行われており、入浴を拒む方も定期的に入浴できるように支援が行われている。また、設置されている浴槽が特殊浴槽であることで、身体状態に合わせた入浴支援も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室の室温・湿度調整を行い、快適な環境作りを心掛けている。天気の良い日は布団を干す様にしている。体調によっては日中でも居室で休む事が出来る様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋は個人ファイルに綴じいつでも確認が出来る様にしている。薬の管理はマニュアルに従い、誤薬防止に努めている。新しい薬を服用の際は状態の変化等気に掛け、問題があれば医師に相談する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入所者の得意な事(苦手な事)や持ち味を職員が理解し、発揮する場を創出できる様な支援を心掛けている。やって頂いた後は常に感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で例年のような外出支援が困難となる。車中からの桜見物、紅葉見物は実施した。苑内での散歩は、極力行うよう支援している。	現状、感染症問題があることで、利用者の外出が困難になっている。利用者の様子等を見てホームの庭を散策する等を、現状で可能な支援が行われている。例年は、買い物等を通じた定期的な外出支援や季節等に合わせた外出行事が行われている。	利用者の外出が困難になっている状況が続いていることもため、今後の感染症問題の状況にも合わせながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物に出掛けた際や、館内の自動販売機での支払い、パンの訪問販売の際は職員が支援し行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	新型コロナウイルス感染症の影響で面会が制限される中で、希望されるご家族に対しては電話やリモートにて会話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を出す為に、玄関や居間には季節の飾りつけを行っている。(正月・雑祭り・七夕・クリスマス等) 壁には行事の写真等掲示してあり、面会の際等の会話にも一役かっている。	ホーム内は、広めの空間で天井も高いことで、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような生活環境がつけられている。また、通路の壁面等には、利用者の作品や行事等の写真の掲示が行われてあり、アットホームな雰囲気がつけられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下の端や玄関にソファ、長椅子を設置し、居間・居室以外にも過ごせる場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所の際に、本人の安心の為、使い慣れたタンス等の家具を有効に使用しお部屋作りをしていく事を説明している。 レクリエーションで作った作品を居室に飾らせて頂き温かみのある居室作りを心掛けている。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物等の持ち込みが行われてあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室についても広めの空間が確保されており、ゆったりと過ごすことができる環境でもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの場所は分かりやすく表示したり、タンス等は収納場所にシールを貼る等分かりやすくしている。居室のベッドは一部低床タイプを導入し、本人の立ち上がりしやすい位置への調整も可能となっている。		